

県内に自生する広葉樹類の有用性の検討

1. はじめに

本県においては、広葉樹林を造成するための有用広葉樹類について、これまで調査が実施されておらず、植栽されている広葉樹はクヌギ、コナラ、ケヤキ、イヌエンジュ等に限られていました。広葉樹林化や針広混交林化を進めていくためには、立地条件に適合し、植栽に適する多種多様な広葉樹類を明らかにし、植栽時の選択肢を広げておくことが重要となります。

そこで、県内に植栽可能な広葉樹の種類を明らかにすることを目的として、県内に自生する広葉樹の分布と立地条件、生育状況等を調査しました。

2. 調査方法

「茨城県植物誌」¹⁾を参考に調査地域を選定し、県北東部5地域、県北西部8地域、県央部7地域、県南部2地域の計22地域で生育調査を実施しました(図-1)。

調査地を踏査し、胸高直径約30cm以上の高木性広葉樹を対象に、胸高直径及び樹高を計測しました。胸高直径30cm未満でも有用と考えられる樹種については計測しました。なお、従来から植栽されてきたクヌギ、コナラ、ケヤキ、ヤマザクラは造林樹種として実績があるので調査対象から除きました。

3. 結果

県内に自生する高木性広葉樹を74種確認しました(表-1)。ホオノキ、ハリギリ、ミズキ、クリなどは多くの地域で確認されました。特にイタヤカエデは22地域のうち21地域で確認され、出現頻度が高かったです。

(1) 県北東部(花園山, 土岳, 三鈴室山, 豎割山, 高鈴山)

ケヤマハンノキは花園山地域のみで確認されました。キハダ、ミズメ、クルミ類も県北東部では花園山地域のみで確認されました。

県北東部ではブナ科の落葉樹が大木になっているのが確認され、ブナ、イヌブナ、コナラ、ミズナラで胸高直径1mを超えるものがあります。

花園山地域には小川ブナ植物群落保護林があり、ブナ、ミズナラ、コナラ、シデ類の原生林となっています。

(2) 県北西部(八溝山, 花瓶山, 袋田, 男体山, 鍋足山, 竜神峽, 鷲子山, 西金砂山)

ミズメ、コバノトネリコ(アオダモ)、クルミ類は県北西部で多く確認されました。

カツラは男体山地域のみで、トチノキは花瓶山地域のみで確認されました。キハダは県北西部では竜神峽地域のみで確認されました。

胸高直径1mを超える大木は、男体山地域でケヤキ、袋田地域でイヌシデ、コナラが確認されました。

(3) 県央部(御前山, 鶏足山, 仏国寺, 仏頂山, 佐白山, 雨巻山, 吾国山)

常緑広葉樹がほとんどの地域で確認され、シラカシの出現頻度が高いです。常緑樹の種数は御前山地域で多かったです。

県央部ではキハダは佐白山地域のみで、ブナは吾国山地域のみで確認されました。

胸高直径1mを超える大木は、吾国山地域でブナ、御前山地域でハルニレが確認されました。

(4) 県南部(加波山, 筑波山)

山麓に常緑広葉樹林、山頂を取りまくように落葉広葉樹林が広がり、山頂にはブナ林があります。

ブナ林にはブナだけでなく、ミズナラ、アカシデ、イヌシデ、イタヤカエデ、ウリハダカエデなどが混生しています。

4. 植栽樹種としての有用性の検討

文献による調査^{2), 3), 4)}と市場調査により樹種ごとの市場価格を算出し、出現箇所数と併せて考慮し、県内に自生する高木性広葉樹74種の中から有用広葉樹の植栽樹種としての有用性が認められる樹種を選定しました。県内全域に適応する樹種が14種、県北山地のみに限定される樹種が5種、温暖地域に限定される樹種が1種、計20種の高木性広葉樹の有用性が高いと考えられました(表-2)。

5. おわりに

県内に自生する高木性広葉樹の中から有用広葉樹の植栽樹種としての適応性を明らかにしましたので、今後、広葉樹林化や針広混交林化等の多様な森林づくりを進める際の参考としていただきたいと思います。

(育林部 主任 市村 よし子)

引用文献

- 1) 鈴木昌友ら(1981) 茨城県植物誌, 茨城県植物誌刊行会。
- 2) 埼玉県農林部森づくり課(2004) 埼玉県でよく見られる有用広葉樹50。
- 3) 佐々木孝昭(1992) 広葉樹林の伐採と広葉樹素材価格, 岩手県林業試験場成果報告24:1~16。
- 4) 宮島淳二(1987) 広葉樹用材の市場価格調査, 熊本県林業研究指導所業務報告書26:42~46。

表-1. 確認された高木性広葉樹

地域区分	樹種名				
県北東 40種	イタヤカエデ	イヌシデ	ウリハダカエデ	クリ	ミズキ
	ミズナラ	アオハダ	アカガシ	アカシデ	アカメガシワ
	アズキナシ	イヌブナ	イロハモミジ	ウラジロノキ	ウワミズザクラ
	オオシマザクラ	オオモミジ	オニグルミ	オノエヤナギ	カラスザンショウ
	キハダ	クヌギ	クマシデ	クマノミズキ	ケヤマハンノキ
	コシアブラ	コナラ	コハウチワカエデ	サワグルミ	サワシバ
	シラカシ	ハクウンボク	ハリギリ	ブナ	ホオノキ
	ヤシャブシ	ヤマザクラ	ヤマハゼ	ヤマボウシ	ヤマモミジ
	アカシデ	イタヤカエデ	イヌシデ	イヌブナ	イロハモミジ
	ハリギリ	ホオノキ	ミズキ	ヤシャブシ	アオハダ
県北西 62種	アカガシ	アカメガシワ	アサダ	アズキナシ	アワブキ
	イイギリ	イヌエンジュ	ウラジロガシ	ウラジロノキ	ウリハダカエデ
	ウワミズザクラ	オオバアサガラ	オオモミジ	オニグルミ	カツラ
	カラスザンショウ	キハダ	クマシデ	クマノミズキ	クリ
	ケヤキ	ケンボナシ	コシアブラ	コナラ	コハウチワカエデ
	コバノトネリコ	コブシ	サワグルミ	サワシバ	シラカシ
	シラキ	タカノツメ	ダケカンバ	トチノキ	ナツツバキ
	ニガキ	ネムノキ	ハウチワカエデ	ハクウンボク	ハルニレ
	フサザクラ	ブナ	マルバアオダモ	ミズナラ	ミズメ
	ミツデカエデ	ムクノキ	ムクロジ	ヤブツバキ	ヤマザクラ
県央 35種	ヤマボウシ	ヤマモミジ			
	アカシデ	イタヤカエデ	イヌシデ	コナラ	シラカシ
	ホオノキ	アオハダ	アカガシ	アカメガシワ	アサダ
	アラカシ	イヌザクラ	イロハモミジ	ウラジロガシ	ウリハダカエデ
	オオモミジ	カラスザンショウ	キハダ	クヌギ	クマシデ
	クマノミズキ	クリ	ケヤキ	サイカチ	サカキ
	スダジイ	タカノツメ	ネムノキ	ハリギリ	ハルニレ
	ブナ	マルバアオダモ	ミズキ	ヤマザクラ	ヤマボウシ
	アカガシ	イタヤカエデ	イヌシデ	ウリハダカエデ	クマシデ
	ブナ	ミズナラ	アカシデ	アカメガシワ	イヌザクラ
県南 25種	イヌブナ	イロハモミジ	エノキ	オオモミジ	クスノキ
	クマノミズキ	コナラ	コバノトネリコ	シラカシ	スダジイ
	マルバアオダモ	ムクノキ	ヤシャブシ	ヤマザクラ	ヤマボウシ

※太字：確認箇所数の多い樹種

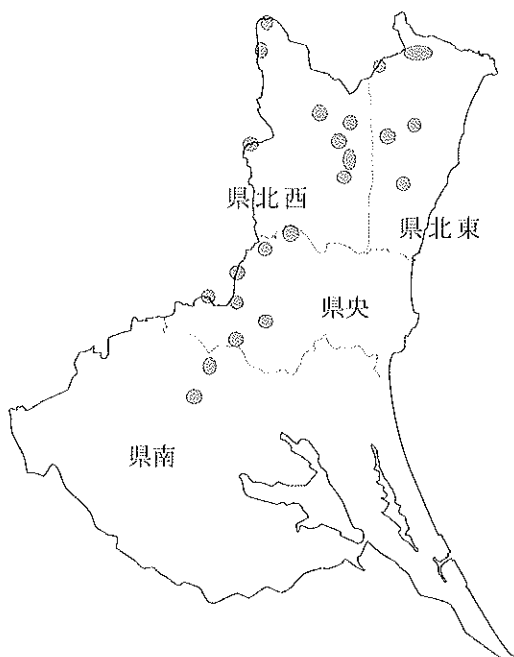


図-1. 調査地域位置図

表-2. 植栽樹種としての有用性が高い高木性広葉樹

樹種名	出現箇所数	市場価格	用途	生育地
クヌギ	*	○	しいたけ原木	県内全域
コナラ	*	○	しいたけ原木, 建築材	県内全域
ケヤキ	*	◎	建築材, 家具材, 器具材, 彫刻材	県内全域
ヤマザクラ	*	◎	建築材, 器具材, 家具材, 楽器材, 彫刻材	県内全域
イタヤカエデ	◎	◎	器具材, 家具材, 楽器材, 建築材, 運動具材	県内全域
イヌシデ	◎	○	建築材, 器具材	県内全域
アカシデ	◎	○	建築材, 器具材, 家具材	県内全域
ホオノキ	◎	◎	器具材, 建築材, 彫刻材, 楽器材	県内全域
ミズキ	◎	○	こげし, 器具材, 建築材	県内全域
ハリギリ	◎	◎	家具材, 建築材, 器具材, 楽器材	県内全域
シラカシ	◎	○	器具材, 車両材, 船舶材	県内全域
クリ	◎	◎	建築材, 器具材, 家具材, 土木用材	県内全域
アサダ	○	◎	建築材, 家具材, 器具材	県内全域
ウワミズザクラ	○	◎	建築材, 家具材, 彫刻材	県内全域
ミズナラ	○	◎	家具材, 建築材, 器具材	県北山地のみ
ブナ	○	◎	家具材, 建築材, 器具材	県北山地のみ
コバノトネリコ	○	◎	運動具材, 器具材, 家具材	県北山地のみ
ミズメ	△	◎	家具材, 建築材, 器具材	県北山地のみ
キハダ	△	◎	家具材, 建築材, 器具材	県北山地のみ
アカガシ	○	◎	器具材, 車両材, 船舶材	温暖地域のみ

※出現箇所数：多い=◎, 普通=○, 少ない=△, *=従来から植栽されてきたもの

※市場価格：高い=◎, 普通=○